

起こりうる単位修得ミスについて（言語文化学部）

学生が見落としやすい代表的な単位修得ミスを掲載しています。

ここに掲載されていない単位修得ミスもありますので、卒業所要単位や各授業科目の履修要領等については、必ず自身の入学年度（第3年次編入生の場合は入学の前々年度）の「履修案内」をよく確認してください。

言語文化学部、国際社会学部 共通事項

<言語科目>

- ◆ 地域言語 A（〇〇語Ⅲ）を必修単位として求められる言語において、当該科目の必修単位数を満たしていない。
- ◆ GLIP 英語または教養外国語に係る必要単位数が不足している。

(例 1) GLIP 英語 A : 6 単位、GLIP 英語 B : 0 単位 ※GLIP 英語 B が 2 単位不足で×

(例 2) GLIP 英語 A : 2 単位、GLIP 英語 B : 4 単位 ※GLIP 英語 A が 2 単位不足で×

⇒ GLIP 英語を必修 6 単位として履修する場合は、「英語 A : 4 単位、英語 B : 2 単位」の組合せで履修する必要があります。

(例 3) 教養外国語〇〇語 A : 5 単位、〇〇語 B : 1 単位 ※教養外国語〇〇語 B が 1 単位不足で×

(例 4) 教養外国語〇〇語 A : 4 単位、××語 B : 2 単位 ※教養外国語〇〇語 B が 2 単位不足で×

(ひとつの言語で 6 単位を修得する必要がある)

⇒ 教養外国語を必修 6 単位として履修する場合は、いずれかひとつの言語で 6 単位修得しかつ、その中で中級レベル（〇〇語 B）を少なくとも 2 単位含む必要があります。

<地域科目>

- ◆ 地域基礎科目を必修単位数を超えて修得し、卒業所要単位に含めている。

2013～2015 年度入学者

⇒ 必修単位数（6 単位）を超えて修得した地域基礎の単位は、地域科目はもとより関連科目としても、卒業所要単位に含むことはできません。

2016 年度以降入学者

⇒ 必修単位数（6 単位）を超えて修得した地域基礎の単位は、受講を指定された授業以外も含め、関連科目として、卒業所要単位に含むことができます。

<教養科目>

- ◆ 世界教養科目における授業科目区分ごとの必修単位数を満たしていない。

以下の授業科目区分ごとに求められる（ ）内の単位数を満たした上で、計 16 単位を修得する必要があります。

区分ア：「現代を生きる」「地球社会と生きる」「人生を拓く」（4 単位以上）

区分イ：「知と文化に挑む」（6 単位以上）

区分ウ：「世界から日本を見る」（2 単位以上）

区分エ：「現地で学ぶ」（任意で履修）

- ◆ スポーツ・身体文化科目を3単位以上修得し、卒業所要単位に含んでいる。

必修単位数（1単位）を超えて修得したスポーツ・身体文化科目の単位は、1単位に限り関連科目として卒業所要単位に含むことができます。**2単位を超えて修得した単位は、卒業所要単位に含むことはできません。**

<選択科目>

- ◆ 指導教員の専門演習（本ゼミ）を、指導教員以外の専門演習で代用している。

（例1）指導教員の「〇〇A（専門演習）」2単位、指導教員以外の「××B（専門演習）」2単位

※指導教員の「〇〇B（専門演習）」が2単位不足で×。もしくは、指導教員変更後に本ゼミの指定を行っておらず×

⇒ 指導教員を途中で変更した場合、本ゼミの指定を含む変更手続きを行う必要があります。

（すでに手続きを行っている場合は問題ありません。）

- ◆ 指導教員が開講する「卒業論文（研究）演習A・B」「卒業論文（研究）」の一部又は全部が履修登録されていない。

（例1）「卒業論文（研究）演習A」（春学期）だけが登録されている。

※卒業論文（研究）演習B、卒業論文（研究）が不足で×

⇒ 学生自身で「卒業論文（研究）演習A」「卒業論文（研究）演習B」「卒業論文（研究）」の3科目を履修登録する必要があります。「卒業論文（研究）演習A」及び「卒業論文（研究）」は春学期にしか履修登録ができないため、**未登録の場合は至急教務課窓口まで申し出てください。**

（例2）「卒業論文（研究）演習B」（秋学期）だけが登録されている。

※卒業論文（研究）演習A、卒業論文（研究）が不足で×

⇒ 秋学期に留学等から復学し、翌年3月に卒業を予定している場合は、秋学期の履修登録期間中に**「継続聴講」もしくは「卒業論文演習相当科目」の手続きを教務課で行う必要がありますので、**遺漏のないよう手続きをお願いいたします。

<関連科目>

- ◆ 修得すべき必要単位数が不足している。

（例1）教職科目の単位数を関連科目に含めて計算している。

⇒ 教育職員免許状のために開設される「教職に関する科目」および「情報技法」の修得単位は、**関連科目の必修単位（卒業所要単位）に含むことはできません。**

言語文化学部

<導入科目>

- ◆ 指定された条件どおりの必修単位数を満たしていない。

2013～2015 年度入学者

(例 1) 所属コース開講科目：2 単位、他コース開講科目：2 単位 ※所属コース開講科目が 2 単位不足で×
⇒ 所属コースの開講科目から 4 単位を修得する必要があります。

2016 年度以降入学者

(例 1) 言語・情報コース開講科目：4 単位、総合文化コース開講科目：0 単位
グローバルコミュニケーションコース開講科目：2 単位 ※総合文化コース開講の科目が 2 単位不足で×
⇒ 各コースの開講科目から 2 単位ずつ、計 6 単位を修得する必要があります。

<概論科目>

- ◆ 指定された条件どおりの必修単位数を満たしていない。

(例 1) 所属コース開講科目 6 単位 (指定外 6 単位)、
他コース開講科目 4 単位 (指定 4 単位) ※指定科目が 2 単位不足で×
(例 2) 所属コース開講科目 4 単位 (指定 2 単位、指定外 2 単位)、
他コース開講科目 6 単位 (指定 2 単位、指定外 4 単位) ※指定科目が 2 単位不足で×
(例 3) 所属コース開講科目 2 単位 (指定 2 単位)、
他コース開講科目 8 単位 (指定 8 単位) ※所属コース開講科目が 2 単位不足で×
⇒ 次の 2 つの条件をいずれも満たした上で、計 10 単位を修得する必要があります。

(1) 所属コースの開講科目から **4 単位**

(2) 指定された下記授業科目から **6 単位**

<言語情報コース>

「言語学概論 A」「言語学概論 B」「音声学概論 A」「音声学概論 B」

<グローバルコミュニケーションコース>

「言語教育学概論 A」「言語教育学概論 B」

<総合文化コース>

2013～2015 年度入学者

なし

2016 年度以降入学者

「文化・文学概論 A」「文化・文学概論 B」「思想文化概論 A」「思想文化概論 B」

※ (1) (2) の両者を満たす科目の場合は、どちらの条件にも二重に含むことができます。

下記の例は、所属コース開講科目 6 単位で (1) (2) のいずれの条件も満たし、計 10 単位を修得しているため卒業要件を満たす。

(例) 所属コース開講科目 6 単位 (指定 6 単位)、他コース開講科目 4 単位 (指定外 4 単位)

<選択科目>

- ◆ コース固有科目、学部共通科目の必修単位数が不足している。

2013～2015 年度入学者

(例 1) コース固有科目 : 10 単位、学部共通科目 : 8 単位 ※コース固有科目が 2 単位不足で×

(例 2) コース固有科目 : 14 単位、学部共通科目 : 2 単位 ※必要とされる計 18 単位に対して 2 単位不足で×

⇒ **コース固有科目を最低 12 単位以上修得した上で、コース固有科目・学部共通科目を合わせて計 18 単位修得する必要があります。**

- ◆ 講義・専門演習の必修単位数が不足している。

2016 年度以降入学者

(例 1) 所属コース開講科目 : 10 単位、他コース開講科目 : 4 単位 ※必要とする計 16 単位に対して 2 単位不足で×

(例 2) 所属コース開講科目 : 4 単位、他コース開講科目 : 12 単位 ※所属コース科目が 2 単位不足で×

(他コース開講の科目は 10 単位までしか含めない)

(例 3) 所属コース開講科目 : 6 単位、他コース開講科目 : 6 単位、国際社会学部の選択科目 : 4 単位

※必要とされる計 16 単位に対して 4 単位不足で× (他学部の選択科目は、選択科目に含むことはできず関連科目に含む)

⇒ **講義・専門演習を計 16 単位修得する必要がありますが、他コース開講の講義・演習科目は**

10 単位までしか卒業所要単位に含むことはできません。

また、他学部の選択科目を修得している場合は、選択科目に含むことはできず、関連科目に含まれます。